

## 2014年度 事業計画 < 海外事業 >

### 村落植林活動

#### 1. 国立公園問題への対応

##### (1) 森林管理戦略及び環境保全規則の明確化

キリマンジャロ山の旧 HMFS (8,769ha) のうちもっとも大きな面積 (5,120ha) を占めるモシ地方県において、その森林を全体として管理し、保全していくための枠組みと統一的戦略、指針を固める。

その準備作業には、2013年度を通してモシ地方県下の旧 HMFS 沿いにある37村の地域横断的協議体組織 KIHACONE が取り組んできたが、そこで示されたベース案の「内容の妥当性」を検証し、また「実施の確実性」と「持続性」を担保する“仕組み”を備えたものとしていく必要がある。

これらの点について、KIHACONE 及び37村の首長、TEACA と協議し、できるかぎり 2014年度中に最終案としてまとめることを目指す（最終的に環境保全規則 (Sheria Ndogo Ndogo) は各村での村会議の承認を得る必要があり、また戦略、指針は、森林条例の中で明確に位置づけられて初めてその地位が保全されることになり、それらはまたこれからのこととなる）。

##### (2) KIHACONEの政府認定組織への格上げ

新たな森林管理の枠組みを完成させても、KIHACONE がたんなる任意組織である限り、地域代表としての正当性も、政府との交渉力も持ち得ない。従って2014年度は、KIHACONE が中央政府（省庁）もしくは地方政府（県）のいずれかの認定する公認組織として登録されることを目指す。

##### (3) 国会議員への働きかけの強化

国立公園の問題はもはや州、県の裁量の範疇を超えたといえ、壁となっている国立公園法の改正を直接視野に入れ、より高次のレベルへと活動を引き上げるべき段階に来ている。そのた

めには同法の改正に至る権限を持つ中央政府および国会議員へのアプローチがますます重要となっており、KIHACONE による直接交渉を目指す。

##### (4) 旧HMFSの森林減少に関わるデータ収集

キリマンジャロ山の森林破壊は地域の住民が招いたものであるとの政府の見解を正していく必要がある（少なくともそのすべてを地域住民に押しつけるのは誤り）。

そこで大規模に裸地化した旧 HMFS について、政府による商業伐採（ライセンス供与による民間企業の伐採も含む）のデータを収集を試みる（ただし過去州及び県森林局に対し行った調査では、それらのデータは残っておらず、今回も収集できない可能性は高い）。

#### 2. 小規模苗畑グループ支援

##### (1) キリマンジャロ東南部及び東部山麓エリア

既存の9苗畑に対する運営支援および指導を継続し、このエリアを引き続きカバーしていくとともに、地域のイニシアティブによる森林の回復、保全活動を支えていく。

2014年度の各苗畑の育苗計画は、表5の通りである。

表5【小規模苗畑グループ育苗計画】

単位：本

グループ名		育苗計画
1	TEACA	21,220
2	オリモ小学校	4,000
3	フンブフ小学校	2,500
4	キディア女性グループ	2,000
5	モヲ村人グループ	3,100
6	マヌ小学校	2,500
7	マウアセミナー	4,200
8	ロレ小学校	4,000
9	ムシリ中学校	5,160
合 計		50,732

## (2) キリマンジャロ南西山麓エリア

ここでいう南西部山麓とは、図2に示されたモシ地方県内の西端エリアを指す。このエリアはまだ苗畑がない空白地帯となっている。

そこでローカル NGO を通した苗畑運営支援を検討する。ただし KINAPA が国立公園内における環境保全活動を含む一切の取り組み阻止に出ている現状では、南西部エリアにおいて新たな苗畑の運営支援を開始することについては、TEACA と慎重に協議した上で、決定することとする。

## 活動の自立

### 1. TEACAの自立

レンタルハウスの運営など、TEACA も自らの財政基盤の安定、強化に努めているが、自立にはまだほど遠い状況である（現在の自己資金調達率は30%程度）。

2013年度は州による NGO のサポートのすべを探ったが結局こちらも確たる財源を持たない州の限界が露呈し、行き詰まってしまった。

そこで2014年度は、国連等の国際機関、中央政府（副大統領府）ないしはロータリークラブ等の民間団体からの支援が得られないか、または連携が図れないかを検討し、これらの機関、団体等に対し具体的な提案を行うこととする。

### 2. グループ積み立て

#### (1) キディア女性グループ

すでに目標積立額を達成し、この資金を元手に自立のための新規事業（ハイブリッド種による養鶏事業）を立ち上げた同グループについては、TEACA のプログラムとしてのグループ積み立ては継続しない（自主的な積み立ての継続はグループの判断に任せる）。

当会はグループの養鶏事業の確実な運営に注力し、事業の採算ラインである1人30羽の飼育目標を目指すこととする。

新たな事業だけにまた課題や問題も多く出てくると思われ、グループの完全自立には2年程度はかかるものと見込んでいる。

## (2) キランガ女性グループ

2013年度に会計簿の提出が滞った同グループについては、なによりその原因の究明を最優先する。100万シリングの積み立て目標額の達成を目の前にしていただけに、何とかその立て直しを図りたいと考えている。ただしその状況、内容によっては、今後の他グループへのグループ積み立てプログラムの適用のことも考え、たとえ目標額を達成しても、新規事業の立ち上げを1年延期する等の処置が必要になるものと考えている。

## 3. 養 蜂

### (1) 低地養蜂事業<ミツバチ>

現状の、さらには今後一層重大な局面を迎える国立公園問題での対応への負荷を考えると、遠隔事業地である低地養蜂事業については、これ以上適切な事業管理、運営の維持は厳しいと考えざるを得ない。従って本事業は撤退の方向で検討する。

### (2) 高地養蜂事業<ミツバチ>

ミツバチ養蜂については、今後中間技術を用いたケニア式トップバーハイブへの切り替えを順次進めていくこととする。

このため同養蜂箱の自己調達化を図るための製作技術の確立を目指す。当面の間は、タンザニアの民間業者から調達する方向で検討し、調達可能であれば、2014年度は2箱程度を追加調達することとする（ただし価格次第）。

### (3) 高地養蜂事業<ハリナシバチ>

ハリナシバチについては、引き続き新群の調達と、それによる飼育数の増加を目標としていく。新群の調達はほとんど運次第の状況であり、手に入るときに手に入る分だけ手に入れるという方法しか取りようがないのが実情である。

### (4) 養蜂事業の普及<ミツバチ>

2013年度のマワンジェニ村に続き、2014年度も、キリマンジャロ山麓の村でのミツバチ養蜂の普及・拡大を図る。普及対象村はムウィカ地区のロレ・マレラ村とし、もっとも単純なプランクタイプ養蜂箱による展開をベースに考える。初年度は2箱程度を設置する予定。

## 生活改善

### 1. 改良カマド普及

2013年度に採用した新方式による職人の養成を継続実施する。実施対象村はキレマ地区のルワ村を検討するが、TEACA の意見も取り入れた上で最終決定することとする。新方式による普及は今後も1年に1カ村のペースで続けることとする。

なお、2013年度に作成することが出来なかった普通石タイプ改良カマドの普及用パンフレットの作成については、できるだけ作りたい考えではあるが、現状の負荷状況から、2014年度の取り組み課題としては取り上げない。

### 2. コーヒー農家支援

#### (1) 新品種接ぎ木研修

2013年度に計画していた TaCRI 専門家による5人のコンタクトファーマーに対する新品種の接ぎ木研修は、本人の都合が付かず、実施できなかった。接ぎ木技術は今後の新品種の普及に大きく影響してくるだけに、その技術習得は必須といえるものである。

そこで2014年度は、KNCU の研修に5人を派遣することとし、TEACA と協議の上で、場合により TaCRI 専門家による研修と TEACA による研修を組み合わせることで実施することとする。

#### (2) 巡回技術指導の継続

元コーヒー栽培普及指導員のジェームズ・キサンガ氏による、5人のコンタクトファーマーを含む10人の KIWAKABO メンバーに対する巡回指導を継続実施する。

#### (3) KIWAKABOのデータ分析能力の向上

KIWAKABO が独立したコーヒー生産農家グループとして独自に販路を確保していくためには、絶対的な生産量もさることながら、データによる分析能力の向上により、適切な状況判断と問題点の把握、改善及び目標の設定ができるようになる必要がある。そこで当会にて基本的なデータ処理についての指導を実施する。

一方、KIWAKABO から要請されている、メンバーからのコーヒー買い付け用の初期回転資金の支援については、2014年度は見送る方針。

## 3. その他

### (1) 診療所支援

テマ村の新診療所については村側の着工を待つしかなく、着工を待ってその翌年度に予算化することとする。

### (2) 伝統水路支援

キディア伝統水路の伝統溜め池“Nduwa”は以前より水量確保のための拡張の要望が出されており、キディア村との話し合いにより、必要と判断される場合は、支援を実施する。

## 研修／セミナー等

### 1. 子どもたちのスタディツアー

キリマンジャロ山麓にある小学校1校を対象に実施している、「自分たちの伝統、文化」をテーマにしたスタディツアーを、2014年度も継続実施する。対象校及び対象学年は、TEACA 及び学校の先生方と協議のうえ決定する。なお、スタディツアーの実施先（マランゲー）およびその方法については、見直す可能性がある。

### 2. ケニアでの養蜂研修

ミツバチ養蜂の中間技術については、その確実な習得に向けて、ケニアのバラカ農業大学が実施する研修に毎年 TEACA リーダーを派遣することが望まれる。

ただし国立公園問題への対応から、この研修への参加は負荷が高く、2014年度も実施するかについては TEACA と協議の上、決定することとする。

### 3. 日本人長期ボランティアの受け入れ

現在当会に対し、TEACA の活動現場で1年間程度の長期ボランティアに取り組みたいとの要望が出されている。大学（持続可能開発専攻）を休学し、現在ナミビアで遊牧民の生活について学んでいる女性であるが、TEACA と話し合い、基本的に受け入れる方針。実際に長期ボランティアにするかは、夏の現地調査時に本人と会い、最終決定する予定である。

## 2014年度 事業計画 <国内事業>

### 国際交流事業

#### 1. 植林ワークキャンプ

KINAPA による国立公園内での植林阻止が続いている現状では、ワークキャンプの継続実施は難しいと考えざるを得ない。

今夏の現地調査において、TEACA とともに実施可否について話し合いをもつ予定であるが、可能性は低いと思われる。

また実施が可能となった場合も、セレンゲティ、ンゴロンゴロといったその他の世界遺産、国立公園の訪問を含んだ内容とするかについては、参加費とのバランスを考慮して検討が必要となってくる。

従って2014年度は、ワークキャンプは事業計画には組み込まないこととする。植林も含め、再度まったく新しいコンセプトのもとにワークキャンプのプログラムを構築する必要があるだろう。

#### 日本の市民とタンザニアの村人の取り組み ～Rafiki プロジェクト～

2014年度のRafikiプロジェクトでは、以下の3つの課題を最大の目標として取り組む。

##### (1) 自慢の森への「名付け」

テマ村及びそれに隣接するキディア村、モワ村の3村において、多くの村人の参加の下に、3村で共有する森の名前を決定する。またそのためのプロセスを確定する。

##### (2) ツール掲載アイテムを多くの村人の意見により決定する。

現行のツール（ガイドブック／カルタ／イラストマップ）に掲載されているアイテムは、まだ一部の村人に対する聞き取り調査による結果しか反映できていないことから、必ずしも多くの村人たちの考えと一致しているとはいえない

側面がある。そのため、これらのツールに掲載するアイテムを、3村の多くの村人たちの意見により決定されたものとする。

##### (3) 村人との協力体制をより強化、持続的なものとする

Rafiki プロジェクトが最終的に目指しているものは、村人たちの内発的気持ちは、長く自分たちの森を大切に守っているその状態であり、日本人がコミットすることにはない。

従ってRafikiプロジェクトではこの取り組みが movement として地域において“自分化”され“内包化”されていくことを常に重視して取り組んでいる。2014年度は、ガイドブックを契機に立ち上げられた村の編集委員会がその原動力の一つになると考えており、委員会との継続的な協力関係の構築を目指す。

表6 【Rafiki プロジェクト現地渡航日程(案)】

(2013年7月21日～8月8日予定)

	行 程	内 容	宿泊
1	日本発	成田発	—
2	タンザニア着	キリマンジャロ空港着	モシ泊
3	モシ→テマ村	TEACAとミーティング	テマ村
4	テマ村	テマ村キーパースン・ミーティング①	↓
5	↓	キディア村キーパースン・ミーティング①	↓
6	↓	モワ村キーパースン・ミーティング①	↓
7	↓	3村教会アンケート調査実施 ガイドブック委員会ミーティング	↓
8	↓	予備日	↓
9	↓	テマ村キーパースン・ミーティング②	↓
10	↓	キディア村キーパースン・ミーティング②	↓
11	↓	モワ村キーパースン・ミーティング②	↓
12	↓	オリモ小学校カルタ・ミーティング ナティロ中環境クラブとミーティング	↓
13	↓	予備日	↓
14	↓	3村教会アンケート回収	↓
15	↓	アンブフ小学校カルタ・ミーティング モワ小学校カルタ実演	↓
16	↓	フォイエニ小学校カルタ実演	↓
17	↓	TEACAとミーティング	↓
18	タンザニア発	村→キリマンジャロ空港発	↓
19	日本着	成田着	—

※ 確定内容ではありません。



## タンザニア・ポレポレクラブ

(事務所) 〒154-0016 東京都世田谷区弦巻1-28-15サニタイトハイム301号室

(Tel/Fax) 03-3439-4847、(郵便振込口座) 00150-7-77254

(E-mail) pole2club@hotmail.com、(HP) <http://polepoleclub.jp/>

(本 部) 〒107-0062 東京都港区南青山6-1-32-103